



2019

公益財団法人
京都市
環境保全
活動推進協会
事業報告書



公益財団法人
京都市
環境保全活動
推進協会
2019年度
事業報告書

●対象期：2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向
けた事業、将来の見通し・予定等について記載しています。

●発行日：2020年10月

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会(以下、「協会」という。)は、2001年2月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター。以下、「エコセン」という。)の指定管理業務等を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会の実現」を目指して、事業運営を行っています。

本報告書は多くの方々にも事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しています。



環境保全活動を通して
恵み豊かな景色を
引き継いでいきます。

千年の都、
京都から未来へ

表紙写真：【右上】市原野学区「守りたい市原野エコマップ製作」【左上】岡崎フリーマーケット
【右下】全館イベント「+未来フェスタ～プラスチックと私たちの暮らし～」【左下】JICA 課題別研修(株)月桂冠見学

目次

特集 2050年CO2排出

実質ゼロを目指して

事業実績(数字で見る2019年度)
理事長メッセージ

環境学習・環境保全活動支援事業

・展示学習・施設利用

・エコセンの情報発信

・環境イベントの開催

・ボランティアとの協働

・連続講座・海外交流・大学生支援

・「さすてな京都」で学ぶ

地域環境活動支援事業

・「エコ学区」で地域支援

・京都市ごみ減量推進会議

・京のアジエンダ21フォーラム

国際事業

・京都モデルを生かし海外の人材育成

講師派遣事業・その他事業

・講師派遣・調査研究等

発行物一覧

パートナーの声

事業運営体制・KES

中長期計画

沿革

インフォメーション

42 41 39 38 37 36 35 31 27 23 19 18 17 15 11 10 7 6 5 3

協会の概要

環境に配慮した市民の
自主的な行動による
地域社会づくりに寄与する

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的に設立された法人です。

この目的の達成のために、「環境意識の普及・啓発」、「環境情報の発信」、「環境保全に関する調査・研究」、「環境教育及び人材育成」、「環境保全のための市民・事業者等との連携・支援」、「環境意識の向上のための国際的な連携・支援」、「環境保全活動に関する施設・管理運営」等を、市民・事業者・行政・教育機関とのパートナーシップに基づき行っておりま



ミッション

持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。

● 私たちは、環境ボランティアを始めとした、人材育成講座を中心に展開し、環境保全活動を始めるベースを身に付けた人を増やし、実際に活動の場を提供し、自主的に活動を展開できるスキルを身に付ける支援をします。

● 私たちは、活動する場が増えるよう、京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、多くの人材が自主的に活動を展開し、個人や団体の活動の輪を拡げることが支援します。

● 私たちは、様々な場所で展開される新たな環境保全活動を充実したものにすため、育成した人材が携え、様々な場所で展開されていくようなプログラムを開発します。

● 私たちは、多くの場所で環境保全活動が展開されていくために、人材育成・支援、活動の場創り、ソフト開発で得たノウハウ、成果を国内外に発信します。

ビジョン

① 京都における環境保全活動に参加・参画する人の輪を広げ、毎年多くの環境人材を輩出しています。

② 京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になります。

③ 活動に活用される環境教育プログラムなどのソフト開発と普及の役割を担っています。

④ 私たちの活動の成果やノウハウを世界に発信し、国際的にも環境教育・環境保全活動の推進に働きかけられる存在になります。

6つの方向性

① 地域社会との連携を深める

② パートナーシップをこれまで以上に

③ 人材育成

④ 京都の環境保全活動・環境教育の

ノウハウを全国・世界へ波及

⑤ 環境学習ツール・

プログラム開発力の強化

⑥ 発信力の強化

環境学習・環境保全活動支援事業

京都市の環境学習施設「京エコロジーセンター」指定管理者、「さすてな京都」運営メンバーとして、環境学習プログラムを提供しています。

地域環境活動支援事業

「エコ学区サポートセンター」「京都市ごみ減量推進会議」「京のアジェンダ 21 フォーラム」の事務局として、地域のエコ活動を支援しています。

国際事業

これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受入や技術移転を行っています。

講師派遣事業

環境学習、環境をテーマにしたワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣しています。

その他事業

環境学習施設運営やボランティア制度構築をご検討中の方々向けに、運営ノウハウの提供や制度設計のコンサルティングを行います。

2050年CO₂排出実質ゼロを目指して



2019年5月11日に行われた「IPCC第49回総会京都市開催記念シンポジウム」で、「1.5℃を目指す京都アピール」が発表された（京都国際会館）



地域のお祭りで子どもたちと自然エネルギーの学習
（6月2日 下京区豊園学区）



「SDGs × JICA 海外協力隊
～世界の環境問題から私たちのSDGs実践を考える～」（11月16日）

パリ協定の 目標達成に向けて

2016年に発効した「パリ協定」は、世界中の国が「産業革命前からの地球の気温上昇を2℃より低く保ち、1.5℃以下に抑える努力をすること」「そのために、21世紀後半に世界の温室効果ガス排出を実質ゼロにすること」へ向け、努力するよう定めています。

それを受けて、京都市と当協会は、2019年5月に「1.5℃を目指す京都アピール」を行い、2050年頃までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、あらゆる方策を追求し具体的な行動を進めていくことを表明しました。

当協会は「持続可能な社会の実現」をミッションに掲げる団体です。近年頻発する気象災害の甚大な被害を鑑みると、この社会を持続可能にするために気候変動を最小限に留めていかなければいけない、そのためには2050年頃までに「二酸化炭素排出量・実質ゼロ」の社会をつくるのが求められるのです。

当協会の18年間の歩み

プラザ（中国・北京市）設立への協力、マレーシアの環境教育支援、海外研修員受入などに取り組んでいます。

当協会は設立以来18年間、エコセン

の運営を通じ、子どもから大人まで幅広い年代を対象に、温暖化防止などを学ぶプログラムの企画実施を、市民団体、事業者、行政等とのパートナーシッ

プのもと続けてきました。2019年度、エコセンの開館からの累計来館者数は、150万人を突破しました（9月10日）。

また、エコ学区サポートセンターの運営を通じ、京都市内の222の地域コミュニティでエコ活動を推進。国際事業では、私たちが京都で育んできた「パートナーシップ型環境教育」のノウハウを生かし、日中環境技術情報

3団体統合と「さすてな京都」開館

1998年に発足し、産官学民が連携したワーキンググループ活動から、環境マネジメントシステム「KES」、家電製品への省エネルギーラベル表示、祭りへのリユース食器導入など、全国モデルとなる先駆的な取組を実践してきた団体です。

そして、10月5日には京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」が新規オープン。当協会を含む3社によるコンソーシアムが、運営者に選定されました。開館から3月末までに

1万4244名の方々が来場。環境教育に取り組む市民グループと連携し、来場者に低炭素型・循環型社会・自然共生社会を考える機会を提供しています。

この地球を持続可能にするためには、



エコセン来場者150万人記念（9月10日）



京都市ごみ減量推進会議「岡崎フリーマーケット」（11月23日）



京のアジェンダ21フォーラムが企業と連携し環境出前授業（2月18日 京都市立藤ノ森小学校）



南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」（10月5日オープン）

再生可能エネルギーを普及させ、省エネルギーを進めていく必要があります。これには様々な主体間のパートナーシップが不可欠です。当協会は、3団体がこれまでに醸成してきた「大人と子どもをつながり」「産官学民のつながり」「地域とのつながり」「国内外とのつながり」等を充分に生かして、今後も環境保全活動に参加する人を増やし、「人と人をつなげる活動」に取り組んでいきます。

事業実績 （数字で見る2019年度）

入館者8年連続9万人超え
9月には累計入館者数が
150万人を突破

2019年9月10日、エコセン開館からの累計入館者数が150万人を突破しました。後半は新型コロナウイルス感染拡大の影響で見学キャンセルが相次いだものの、8年連続で入館者数が9万人を超えました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響が続いていますが、感染拡大防止対策と、オンライン対応等の拡充に努めます。

京エコロジーセンターの入館者数

	2009	2010	2011	2012	2013	2014
全体入館数	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847
団体見学	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104	6,091
エコ学習	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949	4,794
会議室等	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430	4,359
一般来館者	63,279	52,722	71,202	80,598	79,063	76,603

	2015	2016	2017	2018	2019
全体入館数	100,701	101,869	93,009	93,491	90,469
団体見学	5,859	5,018	5,517	4,920	3,147
エコ学習	3,944	3,961	4,608	3,383	3,157
会議室等	4,894	5,114	5,158	4,880	5,998
一般来館者	86,004	87,776	77,726	80,308	78,167

※各年度3月31日の数値

環境ボランティア登録者数の推移

登録者	2009	2010	2011	2012	2013	2014
エコメイト	72	61	55	51	47	42
京エコサポーター	89	87	81	94	108	118
合計	161	148	136	145	155	160

登録者	2015	2016	2017	2018	2019
エコメイト	51	52	55	49	53
京エコサポーター	122	133	136	145	148
合計	173	185	191	194	201

※各年度4月1日の数値

エコセンの特徴の一つは環境ボランティアの存在。人が介在する魅力的な施設を目指しています。2019年度の登録者数は過去最多の201名。自ら環境に配慮した暮らしを実践するボランティアが、入館者を温かくご案内します。

環境ボランティア登録者が
初めて200名を超えました

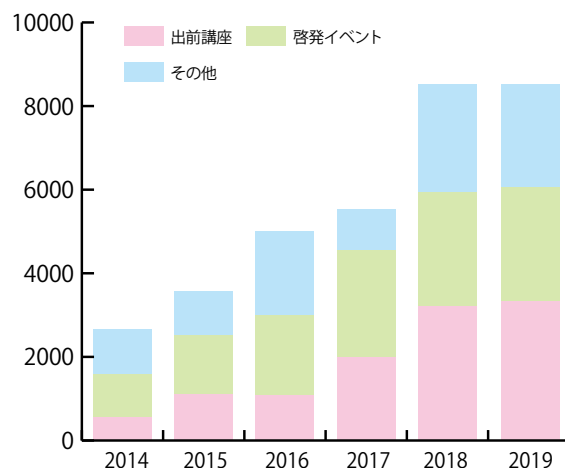
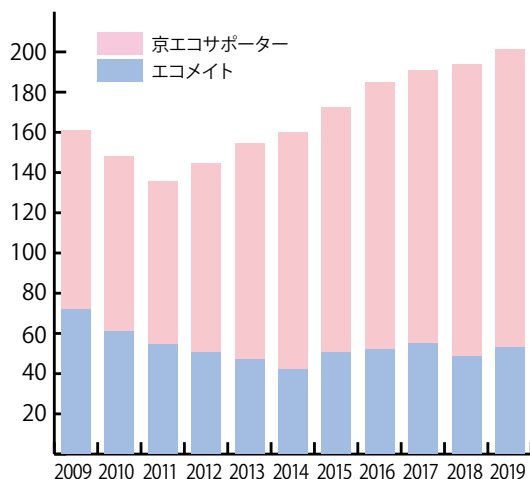
地域環境活動に参加された人数

	出前講座 参加人数	啓発イベント 参加人数	その他 参加人数	合計 参加人数
2014	559	1,017	1,089	2,665
2015	1,109	1,407	1,050	3,566
2016	1,080	1,923	1,999	5,002
2017	1,993	2,556	977	5,526
2018	3,212	2,731	2,567	8,510
2019	3,444	2,668	2,227	8,339

※協会主催イベントを含む

※各年度3月31日の数値

職員や環境ボランティアが
出向いて、出前講座などを開催し、
コロナ禍でも前年と同等を維持。
当協会は、地域のエコ活動を支援しています。
2019年度も、地域に職員と環境ボランティアが出向き、出前講座を開いたり、地域住民の方々とエコイベント企画、緑のカーテン育成、自治会館エコ改修等に取り組み、多くの方々が活動に参加されました。



理事長メッセージ

理事長プロフィール

京都大学名誉教授。専門は廃棄物管理。主な著書に『ごみ問題とライフスタイル』（日本評論社）、『エコロジーテスト』（講談社）、『有害廃棄物』（中央法規）、『現代環境論』（有斐閣）等。

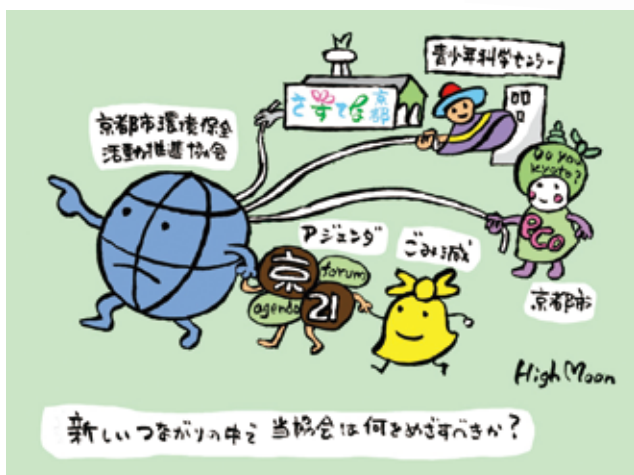
ハイムーンのペンネームで、環境・廃棄物問題を訴える漫画家として日本漫画家協会に所属。国内を始め、イギリス・中国・インドネシア・マレーシアでも個展を開催。漫画家としての著書に『ゴミック「廃棄物」』第1～8集（日報）、『絵コロジャー』（合同出版）、『まんがで学ぶエコロジー』（昭和堂）等がある。



公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会

理事長 高月 紘

高月 紘



新しいつながりの中で何を目指すべきか？

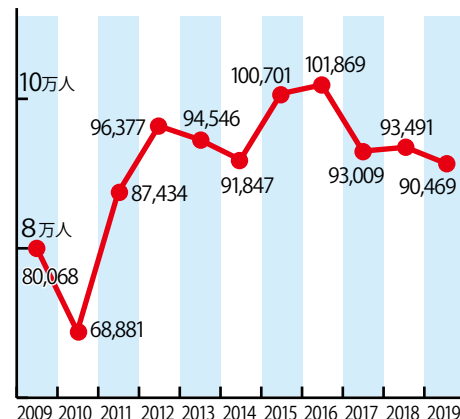
2019年度は、当協会としては、後半はコロナ禍で京エコロジーセンターの運営に苦慮した時期もありましたが、前半から新しい取組がスタートした年でありました。

まず、4月1日に当協会は「京都市ごみ減量推進会議」、「京のアジェンダ21フォーラム」と団体統合をいたしました。どちらの団体も20年以上の歴史を持ち、会員制度でしっかりした基盤を持つ団体で、地域や事業者につながりがある組織です。当協会としては、これらの特性を持つ団体とうまく融合して、新たな環境保全活動を展開した

と思っています。

また、10月5日には、京都市南部クリーンセンターに「さすてな京都」という環境学習施設がオープンしました。この「さすてな京都」の運営には当協会も参加しており、「青少年科学センター」と連携して新たな環境学習の取組が期待されています。

このように、当協会としては、色々な新しいつながりの中で、これから何を目指して進むべきか、しっかり検討する時期にきたようです。どうか、皆様方の忌憚らない意見を賜りたいと思います。



正味財産増減の状況

事業年度	2017	2018	2019
経常収益	208,179	210,937	304,466
経常費用	207,274	204,692	247,191
経常増減	905	6,244	57,275
経常外収益	0	0	0
経常外費用	0	0	0
正味財産増減	905	6,244	57,275
資産合計	161,242	158,490	192,639
負債合計	37,501	28,505	42,378
正味財産	123,741	129,985	150,260

（単位：千円）

持続可能な組織経営を目指して

当協会は、営利を目的としない公益財団法人として事業実施しています。

現状では、京都市受託収入が大半を占めますが、持続可能な組織経営に向けて、新たな事業展開にも挑戦していきます。



エコセンで知る「持続可能な暮らし」〈展示学習・施設利用〉



エコセンの常設展示コーナーで、団体の案内をする環境ボランティア



エコセン屋上のビオトープと田畑



エコセンのエントランス

1111 環境保全に関する 活動のための施設の提供

当協会が指定管理者として運営する京エコロジーセンター（エコセン）は、京都市の環境教育・学習の中核施設として、身近な生活や京都の特性を生かした環境教育・学習の進めるため、団体や一般来館者の見学を受け入れています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で見学者減少

2019年度、団体見学の年間受入件数は319件（6304名）で、そのうち京都市立小学校を対象にしたエコ学習が184校（3157名／昨年度比93・3%）、それ以外の団体見学が135件（3147名／昨年度比64・0%）でした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、キャンセルとなった団体見学は、13団体（400名）です。2月以



「エコセン通い帳」を利用する来館者



旬の野菜について学ぶハンズオン展示

降、事前に予約いただいていた団体からのキャンセルが相次ぎ、また新規の申込もほとんどありませんでした。

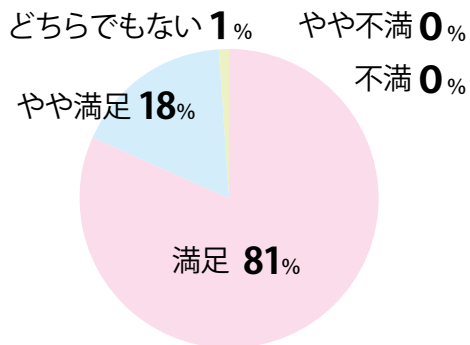
団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、新たな媒体への広報を行いました。資料請求のあった全国の小学校・中学校・高等学校に、パンフレット・チラシを送付しました。その他、昨年度までは旅行会社に絞っていた団体見学チラシを各地のNPO・環境活動団体も対象に加え前年度の240社から262社へ増やし配布しました。

リピーターを増やすためのツール「エコセン通い帳」は、年間で延べ1080名の参加がありました。通い帳に10回参加した方を表彰する「エコの達人認定証」を38枚発行し、スタンプを60個集めた殿堂入りが3名誕生しました。

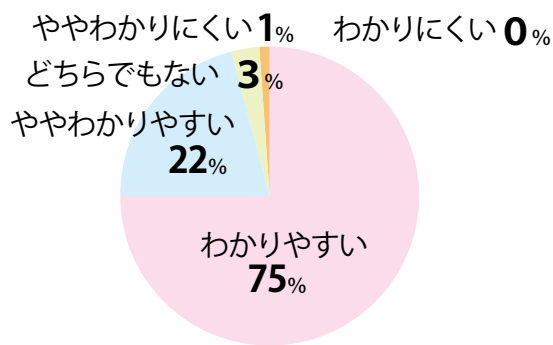
また、来館者アンケート（年間で430件）により、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

2019年度 団体見学アンケート結果（回答数：341 件）

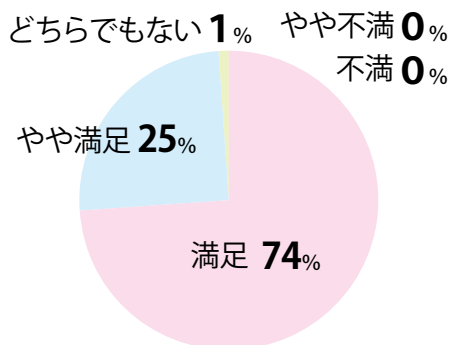
【職員やボランティアの対応】



【館内案内について】



【総合的な満足度】



〈記述回答より（一部要約）〉

- ・わかりやすい説明と現物を使った模型とかで実感が湧き、今まで以上にこみを減らそうと思いました。
- ・具体的な数字の推移を見て、事の重大さがわかった。
- ・自身の認識より早いテンポで温暖化が進んでいることがわかった。
- ・見て学ぶだけでなく体験もできるから、より意識が高くなる。
- ・外のひさはしはとも考えられていて、施設もきれいで分かりやすかったです。

- ・ボランティアの方の楽しいお話を聞きながら、環境のことを知れてよかったです。
- ・笑顔がよかった。
- ・少人数制で丁寧に説明していただき、新しく学ぶことがたくさんありました。
- ・自治会でも話をしたい。
- ・今日のことを参考に、家に帰って実践したいと思います。

※ 小数点以下四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

◇2019年度に実施した企画展示

日程	事業名・共催団体等
1 平成31年 1/12～7/12	「絵本で学ぶ世界の環境展 ～SDGsの視点で選ぶ絵本の世界～」
2 7/13～12/27	特別企画展 「環境マンガが捉えた環境と暮らし 今昔展」
3 7/19～9/3	共同主催型企画展「夏休み限定！クールチョイス☆チャレンジ～ミッションをクリアしよう！～」（京都府地球温暖化防止活動推進センター）
4 8/19～8/30	共同主催型企画展「農業・農村のいろいろな働き」（近畿農政局）
5 10/19～11/4	共同主催型企画展「第35回京都まちとみどり写真コンクール展示会」（京都府都市計画協会）
6 11/12～12/15	「2020年版 環境カレンダー 原画展」（日本環境保護国際交流会）
7 令和2年 1/10～3/31	海でつながる世界の環境展 ～SDGsと海洋環境～



共同主催型企画展「京都まちとみどり写真コンクール展示会」

◇2019年度 企画展示関連イベント

日程	タイトル	講師	人数
8/3	「環境マンガからひもとく 社会の変遷」	ハイムーン氏 (環境マンガ家)	20
2/29	「深海魚 ミズウオから学ぼう 海の環境問題！」	東海大学海洋学部博物館 学芸員 伊藤芳英氏	中止 ※

※新型コロナウイルス感染拡大の影響によるもの

1121
環境保全に関する資料
及び装置の展示

エコセンでは、常設展示を通じて、環境保全に関わる啓発を行っています。また、エコセン主催及び他団体との共催の企画展示も開催しています。

2019年度は、7件の企画展示を開催しました。また、2件の企画展示関連イベントを企画しましたが、うち1件は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。



「ちきゅまるのはこ」は、セルフガイドで遊びながらエコについて学べる



木のぬくもりが魅力の「木のおもちゃひろば」は、親子連れの利用者に人気

子どもたちに人気の「木のおもちゃひろば」は、年間で7596名（前年度比88・3%／3月2日以降利用休止中）、セルフガイドで遊びながらエコについて学べるツール「ちきゅまるのはこ」は、2508名（前年度比124・2%）の利用がありました。

1131
環境保全に関する
情報の収集及び提供

エコセンでは、環境に関する資料を幅広く収集し、かんきょう図書コーナーにおいて閲覧していただくことで、市民の環境意識の向上を図っています。

2019年度は、かんきょう図書コーナーで、年間貸出人数609名、貸出冊数が2012冊ありました。

また、348冊の資料を新たに追加しました。



かんきょう図書コーナーでは、親子連れ等が読書やDVD鑑賞を楽しんでいる



エコセン twitter



エコセン YouTube



環境に配慮した料理レシピを動画で紹介中



エコセンのホームページ

暮らしをエコにするためにーエコセンの情報発信ー

1144 ホームページ等による情報発信

エコセンのホームページでは、エコセンの情報を提供するだけでなく、他団体による活動の情報を収集し、掲載しています。あわせてSNSの活用、プレスリリースの実施、外部の広報媒体の新規開拓等、より効果的に情報が広がり、伝わるよう努めています。

エコセンの情報から他団体の取組まで幅広く

2019年度は、イベント案内チラシを年6回、毎回4100部発行し、エコセン館内や市内各所に配架しました。その他、ホームページやメールマガジン、外部媒体（市民しんぶんやGOGO土曜塾等）を活用しました。



エコセンのイベント案内チラシ

ホームページには、他団体が主催する環境イベント情報の掲載を申請できるフォームを新たに作成し、他団体を支援する体制を整えました。

夏休み中は、隣接する青少年科学センターとの連携で「夏休み 京エコロジーセンターノベルティプレゼントキャンペーン」を実施し、来館促進に努めました。

年度末にかけては新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、予定していたプレスリリースや来館促進のキャンペーンを中止しました。

子どもも大人も楽しく学ぶ 環境イベントの開催



全館イベント「+未来フェスタ〜プラスチックと私たちの暮らし〜」のオープニング風景(11月30日)



講演会「プラスチック問題」で講師3名のクロストーク(1月26日)



全館イベント「+未来フェスタ」で和紙ファイル作り(11月30日)

1145 各種講座や講演会の 企画と実施

エコセンでは、環境問題に関心のない人が関心を持ち、関心のある人が環境に配慮したライフスタイルを実践するきっかけをつくるために、身近な暮らしや社会に関連した内容のイベントを、パートナーシップで企画・実施しています。

2019年度は、工作、クッキング、音楽祭、映画上映会等、子どもから大人まで楽しみながら学べる企画を実施しました。

また11月には、JICA海外協力隊OB/OGの海外での環境教育実践の経験談を通じて、世界の環境問題とSDGsの実践について考えるイベントも開催しました。

そして、世界的にプラスチック廃棄物が注目を集めている情勢を受け、12月に全館イベント「+未来フェスタ〜プラスチックと私たちの暮らし〜」、1月に講演会「プラスチック問題〜環境にやさしい私たちの暮らしを考える〜」を開催しました。



「エコセンちびっこ音楽祭」(2月16日)



「子どもクッキング教室
～自分でつくるカンタンごはん～」(8月4日)



宝酒造(株)との連携イベント「ガラス絵づくり
～空きびんのリサイクル体験～」(7月29日)

◇2019年度に主催したイベント(実施件数:40件 参加者数:4,357人)

日程	タイトル	講師	人数	日程	タイトル	講師	人数
4/21	映画「不都合な真実2 放置された地球」		92	8/19	京都の木で箸を作ろう!	「京北の木で家を作ろう」ネットワーク	46
5/5・6	映画「小さな世界は ワンダーランド」		271	8/24	第6回えこそらキッズ		18
5/11	IPCC第49回総会京都市開催記念シンポジウム 脱炭素社会の実現に向けて～世界の動向と京都の挑戦～におけるパネル ディスカッション2「京都の挑戦～プロジェクト“0(ゼロ)”へのみち～」(京エコロジーセンター17周年記念)	〈ファシリテーター〉 新川達郎氏 京のアジェンダ21フォーラム代表・同志社大学大学院教授 〈パネリスト〉 山極壽一氏 京都大学総長 西本清一氏 京都市産業技術研究所理事長・京都高度技術研究所理事長 門川大作氏 京都市長	400	9/7	第7回えこそらキッズ		23
5/18	第1回えこそらキッズ		41	9/28	第8回えこそらキッズ		30
6/1	第2回えこそらキッズ		34	9/29	昆虫食×SDGs 作って食べて考えよう	内山昭一氏 (NPO)昆虫食普及ネットワーク理事長	19
6/9	梅雨前にオリジナル「ミニ雨水タンク」を作ろう!	京都市上下水道局	81	10/19	カカオ豆から チョコレートを作ろう!	Dari K(株)	59
6/22	第3回えこそらキッズ		41	10/26	わくわくハロウィンフェスタ	京都バレーンフルール アトリエみ塾 洋服のお直し+洋裁教室 渡邊知栄氏	543
6/30	映画「最後の楽園コスタリカ ～オサ半島の守り人」上映会		102	11/2	第9回えこそらキッズ		31
7/13	第4回えこそらキッズ		26	11/16	SDGs×JICA海外協力隊 ～世界の環境問題から、 私たちのSDGs実践を考える～	増田洋介氏、狭間結奈氏 森達朗氏 JICA海外協力隊OV	41
7/21	映画「オープン・シーズン」 上映会		221	11/16	第10回えこそらキッズ		16
7/24	いきもの探偵団		19	11/23	第11回えこそらキッズ		25
7/29	ガラス絵づくり～空きびんの リサイクル体験～	宝酒造(株)	50	11/24	自家製パン作り & パン料理を作ろう!	川口かな江氏 料理教室Kitchen Ciao!	26
8/1	地球にやさしい食と 環境の世界	生活クラブ・ 京都エルコープ	18	11/30	+ 未来フェスタ～プラスチック と私たちの暮らし～		961
8/1	みつろうラップをつくろう!	生活クラブ・ 京都エルコープ	42	12/7	第12回えこそらキッズ①		13
8/2	雲ってなあに? 雲を 知ってお天気博士になろう	(一社)日本気象予報士会 関西支部 楽しいお天気講座	83	12/14	第12回えこそらキッズ②		18
8/3	第5回えこそらキッズ		27	1/11	第13回えこそらキッズ		34
8/4	子どもクッキング教室～自分で つくるカンタンごはん～	京都子どもクッキング 管理栄養士	25	1/19	木でつくる離乳食用 スプーン教室	谷拓也氏 リーラボ―Re:Lab―	24
8/9・10	エコ紙芝居夏まつり!	キム・ファン氏 児童文学作家	140	1/25	第14回えこそらキッズ		38
8/18	深草の竹で遊ぼう!	リーラボ 京都教育大学竹友会	503	1/26	講演会「プラスチック問題 ～環境にやさしい私たちの 暮らしを考える～」	高月紘氏 京エコロジーセンター館長 京都大学名誉教授 田中周平氏 京都大学地球環境学堂 准教授 堀孝弘氏 京都市ごみ減量推進会議	82
				2/16	エコセンちびっこ音楽祭	楽団 1mg	75
				2/23	農家さんに学ぼう! おいしいお米のクッキング	かみなか農楽舎	19
				3/15	映画「海へ消えた プラスチックの謎」上映会		中止 ※

※新型コロナウイルス感染拡大の影響によるもの



伏見板橋小学校「親子の秋のつどい」に
エコセンの環境ボランティアが出展(令和元年11月)



龍谷大学の学生ボランティア体験を受入(6月16日)

1146

各種団体との連携事業

地域コミュニティや各種団体との連携事業として、学習会の実施やブース出展などを行いました。

京都市教育委員会が実施する「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業において、京都市立桃陵中学校の生徒3名、京都市立藤森中学校の生徒3名の職場体験を受け入れました。

その他にも、6月に龍谷大学の学生ボランティア体験の受入や、1月に京安心すまいセンターが実施したイベント「百年の家の秘密 木のやさしさを味わう!木工体験」に、エコセンの木に関する展示の活用や、イベント参加者へ展示案内を行う等の協力を行いました。

なお、エコ学区ステップアップ事業に(P19)22参照)において要請のあった元学区とエコセンの環境ボランティアをつなぎ、ブース出展や学習会の実施等を支援したケースが38件あり、延べ105名のボランティアが活躍しました。

◇各種団体との連携事業一覧

日程	名称	会場	内容
5/14~17	京都市立桃陵中学校職場体験受入	京エコロジーセンター	中学2年生3名を受入
5/16	翠会総会 環境問題に関する講演	ひと・まち交流館 京都	環境問題に関する講演
6/16	龍谷大学 ボランティア体験	京エコロジーセンター	ボランティア体験及びボランティア活動に関するワークショップ
6/18	大宅地区女性会学習会	京エコロジーセンター	ごみ問題に関する学習会
7/28	上烏羽学区 わくわく発電体験ブース	村山公園	発電体験 等
7/28	錦林東山学区 わくわく発電体験ブース	高岸南公園	発電体験 等
10/27	横大路まちづくりフェスティバル	桂川河川敷(横大路付近)	発電体験 等
10/29 ~ 11/1	京都市立藤森中学校職場体験受入	京エコロジーセンター	中学2年生3名を受入
11/16	京の「わ!」まつり	みやこめっせ	発電体験 等
11/17	森のようちえん どんぐり園	宝ヶ池	発電体験 等
11/23	板橋学区 親子の秋のつどい	伏見板橋小学校	発電体験 等
12/22	稚松学区 餅つき大会	元六条院小学校	発電体験 等
1/18	百年の家の秘密 木のやさしさを味わう!木工体験	京エコロジーセンター	木について学び木工体験を行う
2/1	省エネ普及ネット スキルアップ研修	京エコロジーセンター	SDGs と再生可能エネルギーの研修会
3/21	さすてな☆春のエコまつり	さすてな京都	新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止

コラム

14年目を迎えた年間活動「えこそらキッズ」

「えこそらキッズ」は、小学1～4年生とその家族を対象にした年間継続プログラムです。

このプログラムでは年間を通じ、エコセン屋上の田畑やビオトープ等をフィールドに、田植えや種まき、生き物の観察等を実施。そして育てた作物は、自分たちの手で染め物に使ったり、調理して食べたりしました。このように、子どもたちが自ら手足を動かし、

頭で考え、舌で味わうといった五感を活用した体験を大切にしています。

栽培時にはできるだけ種から育て、成長の様子を観察し、育った野菜をすべて収穫するのではなく、一部は種をつけるまで世話をしました。その種は次の種まきで使い、命の循環を感じることができ、プログラムづくりを心掛けています。花には様々な昆虫が訪れ、植物が他の生き物の命を育んでいるこ



「えこそらキッズ」第1回目の顔合わせ(5月18日)



屋上での田植えの様子(6月1日)



屋上で育てた藍を使って藍染め体験(8月3日)

とも体感できます。

2019年度は、抽選の結果42名が登録し、年間14回の活動を実施。毎回参加者親子とエコセンの環境ボランティアたちが一緒に活動し、にぎやかに楽しく過ごしました。

活動の最後には、毎回の活動を1つにまとめる絵巻をつくり、発表会をしました。継続して体験的に学ぶことで、「買い物のときに旬を意識して選ぶ」「なるべく野菜を使いきる」「料理を残さず食べきる」といった変化が見られ、参加者の暮らしの中での実践につながることができました。



屋上の畑でラッカセイの収穫(11月2日)



屋上の畑で収穫したスイカ(8月24日)

市民目線の展示解説が魅力 （ボランティアとの協働）



エコセンの大きな特徴である環境ボランティア「エコメイト」。開館以来、案内ガイド活動を担っている



環境ボランティアが企画・準備・運営を進め実施した自主企画イベント「くらしの省エネ祭り」(6月16日)

1147

環境ボランティアの育成

エコセンの大きな特徴は、環境ボランティア（エコメイト）の存在。館内の展示・設備の解説や自主企画の実施等を行うエコメイトは、開館以来毎年募集をし、養成講座を実施しています。また、年間を通じて、その活動のコーディネートを行っています。

2019年度は、京都市内や周辺地域を中心に、新聞やタウン紙等も活用した広報を行い、新規エコメイトを募集。応募者に対して養成講座を実施し、その結果17名が新規エコメイトとして登録することになりました。

事務局全体でボランティアのコーディネートを行うとともに、ボランティア全体の活動意欲を高める場（マネジメントの会）を年間7回、環境問題に関する最新情報を収集し、活動に生かす研修を年間8回、南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」への見学研修を3回実施しました。

◇マネジメントの会

日程	タイトル	人数
4/1	登録証授与式	27
	スタートアップの会	36
4/20	グループ活動説明会	13
	グループ活動報告会	23
7/7	ボランティア全体ミーティング①	30
9/8	中間ふりかえりの会	23
12/21	ボランティア全体ミーティング②	20
3/22	年間ふりかえりの会	中止※
	修了証授与式	14

◇ボランティア研修

	日程	タイトル	人数
第1回	6/8	「エコセンの設備を知ろう」	24
第2回	7/10	「社会見学（水）」	39
第3回	8/25	「電気に関する情報収集」	29
第4回	9/21	「ごみに関する情報収集」	29
第5回	10/20	「屋上関連（自然）」	20
第6回	11/17	「SDGs」	34
第7回	12/15	「暮らし」	19
第8回	1/19	「地球温暖化に関する情報収集」	44
京都市南部 クリーン センター 見学研修	12/10	見学研修1回目	15
	12/16	見学研修2回目	18
	2/16	見学研修3回目	23

◇エコメイト養成講座

	日程	タイトル	人数
第1回	1/11	エコセン・ボランティアきほんのき	15
第2回	1/18	環境問題・環境学習 きほんのき	16
第3回	1/25	展示・コミュニケーション きほんのき	14
第4回	2/8・9	環境学習プログラム きほんのき（2日間）	26
第5回	2/15	実習 オリエンテーション	15
実習	2/17～3/4	実習期間	17
第6回	3/7	これまでの講座のふりかえり & 登録説明会	中止※



ボランティア全体ミーティング



エコメイト養成講座

◇ボランティアによる自主企画イベント

日程	タイトル	実施グループ名	人数
6/16	くらしの省エネ祭り	ワーキンググループ「くらしの省エネ祭り実行委員会」	436
7/22～8/26 10/29～11/18	ボランティア推薦図書 特別展示 絵本 & POP 展	登録グループ「図書グループ」	
7/25、8/1 8/8、8/15 8/22	エコセン☆夏休みワクワ クひろば	登録グループ「イベントグループ」	166
7/28、8/17 12/21、2/29※	うちごみ相談所	ワーキンググループ「うちごみ相談所」	84
8/11	ペットボトルでマイ風力 発電機をつくろう	登録グループ「エコエネクラブ」	66
9/22	エコロジーカフェ ～環境にやさしいおやつを 考える～	登録グループ「♪エコロジーカフェ♪ の会」	18
12/14	ペットボトルでマイエコ ライトを作ろうクリスマス バージョン 2019	登録グループ「エコエネクラブ」	15
1/26	ペットボトルの万華鏡で 世界をのぞいてみよう	登録グループ「♪エコロジーカフェ♪ の会」	20
2/22	学習会「プラスチックと 容器包装」	登録グループ「イベントグループ」	13
3/22	17 期生を送る会	ワーキンググループ「17 期生を送る会 実行委員会」	中止 ※
3/28	プラごみ分別ゲーム～プ ラスチックを減らして地 球を守ろう！～	登録グループ「イベントグループ」	中止 ※

※新型コロナウイルス感染拡大の影響によるもの

小さい頃通ったエコセンで
環境ボランティアに



環境ボランティア
エコメイト20期生
奥谷文哉さん

私は今、大学3年生です。小さい頃からエコセンを訪れていて、小学生のとき「子どもエコセンクラブ」（現在の「えこそらキッズ」）に参加していました。エコ

パートナーの声



平成20年度「子どもエコセンクラブ」で活動する奥谷さん（当時小学生）

セン屋上で田植えをしたことや収穫した野菜で料理をしたこと、作業の後に飲んだシソジュースが美味しかったこと等が思い出に残っています。

エコメイトに応募したのは、母が新聞の募集記事を持ってきたことがきっかけです。ボランティア研修が始まった頃は不安でしたが、少しずつ慣れてきて、自信を持って館内案内ができるようになってきました。

様々な人が活動に参加していますが、「環境問題に関心がある」という共通点があるので、世代や立場をこえてつながり合えます。社会経験が豊富な仲間の皆さんから学べることが多いです。

今後は、館内展示の紹介をもっとしていきたいですし、自分が昔参加していた「えこそらキッズ」のスタッフもやってみたいと考えています。

多様な担い手を育てる 連続講座・海外交流・大学生支援



自然エネルギー学校・京都2019(8月19日)



ブータンからの来館者に対応(9月17日)



立命館大学Sustainable Week実行委員会と岩手大学
環境マネジメント学生委員会の学生のワークショップ



環境活動パワーアップ講座2019(11月2日)

1148 環境保全活動に関わる 人材の育成

エコセンでは、市民を対象に、環境活動リーダーに必要な専門性を獲得するための連続講座を実施しています。

「自然エネルギー学校・京都2019」では、自然エネルギーの普及・啓発を目指し企画し実践する人材を養成するため、「自然エネルギー100%実現の方法を探る」と題して、国内外の現状や事例について学べる連続講座(全5回)を開催しました。

「環境活動パワーアップ講座2019」では、環境活動の企画・運営・実践と、協力者との関係づくりからコーディネーションまでを体系立てて学ぶことができる連続講座(全5回)を開催しました。

エコセンの環境ボランティア「エコメイト」修了生に対しては、地域の活動に役立てられるような情報、エコ学区ステップアップ事業(P19)へのスタッフ参加呼びかけ等の情報提供を行いました。

1149 海外との交流

2019年度の海外からの団体見学は、20団体247人で、45ヶ国から受け入れ

ました。(第1四半期/5団体75人、第2四半期/6団体70人、第3四半期/6団体85人、第4四半期/3団体17人)

かんきょう図書コーナーでは、日本語を母語としない来館者に楽しんでいただくために、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語の資料を提供しました。今後も必要に応じて資料を充実させていく予定です。

1150 大学生の環境活動支援

エコセンは、大学生の環境活動の拠点としての機能を果たせるよう、各種団体とのネットワークを構築するとともに、大学生がエコセンを拠点に活動を行えるよう支援を行っています(P35 ESD-SDGs事業との連動を予定)。

また9月には、立命館大学Sustainable Week実行委員会と岩手大学環境マネジメント学生委員会の8名が、エコセンで学習会を実施し、会場提供、館内案内、意見交換会ファシリテーションといった支援を行いました。



2019年度に改装オープンした京都市南部クリーンセンター第2工場全景



来館者を対象にしたリユース工作で、エコセンの環境ボランティアが活躍(12月22日)



地元の横大路小学校とピオトープづくり(11月25日)



屋上では芝生広場と足湯を楽しむことができる

「さすてな京都」で学ぶ

「ごみ処理技術から地域環境まで」

2199 南部クリーンセンター―第二工場環境学習施設管理運営

2019年10月5日、京都市南部クリーンセンター第二工場に、世界最先端の環境技術等を楽しく学べる環境学習施設「さすてな京都」がオープンしました。

公募により、当協会、(株)トータルメディア開発研究所、(株)かんでんジョイナスの3社によるコンソーシアムが、運営者として選定されました。

当協会からは、学習プログラム担当の職員を1名派遣しており、9月8日に第二工場竣工式及び「さすてな京都」の内覧会、10月5日に「さすてな京都」オープニングイベントを開催。開館から3月末までに、1万424名の方々にご来場いただきました。

「ごみ減量」はもとより、「循環型社会の形成」「低炭素社会の実現」「自然との共生」を3つの柱とし、「地球温暖化対策」「生物多様性」「環境面から

見た横大路地域の歴史」等の幅広い分野を対象とした環境学習プログラムを作成しました。どのプログラムにも、「ごみ減量」につながる気づきや学びを用意しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で先行きの見えない状況ですが、2020年度からは、京都市立小学校4年生の社会見学の受入等が計画されています。

また、京都市青少年科学センター、エコセン、さすてな京都による「3施設連携」について、当協会が異なる京都市所管部署間の横串の役割を担うことで、相乗効果を生み出せるよう、環境保全活動の中間支援組織としての役割を果たしていきます。



1階のSDGsコーナー



工場見学通路の実物大クレーン模型

エコを切り口に地域力アップ ～「エコ学区」で地域支援～



【市原野学区「守りたい市原野エコマップ製作」】ふるさとウォークで子どもたちが地域のエコマップづくり



【朱雀第三学区「地域の『自然と防災×エコ』拠点づくり」】
小学校のビオトープ改修に向け、現地調査を行う様子



【鷹峯学区「高齢者のためのエコな防災拠点をつくるプロジェクト」】
学習会でエコ防災グッズの展示実演に参加する住民たち

1301

エコ学区

ステップアップ事業に係る学習会等支援業務

京都市と協働し、元学区を単位とする222の地域コミュニティでエコ活動を促進することにより、環境にやさしいライフスタイルへの転換と、家庭部門での温室効果ガス排出量削減を目指しています。

当協会は「エコ学区サポートセンター」を開設し、エコ活動の相談窓口として学区を支援。2019年度は年間で計1566回、学区へのヒアリング・取材・打ち合わせ等を行い（前年度比110%）、地域に根差したエコ活動を促進しました。

3月は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、各学区での集まりを中止し、資料を全戸回覧する等の措置を取りました。

2019年度、学区のエコ活動に対して提供した支援プログラムは、次の通りです。

●京エコライフプログラム

地域住民のつながり（特に子どもたち）を重視し、家庭でエコライフが定着するように努めるプログラムを、4学区で実施しました。

○鷹峯学区（北区）

「高齢者のためのエコな防災拠点をつくるプロジェクト」

災害時のライフライン停止に対処できる地域を目指し、児童館や高齢者施設等で、防災やエネルギーに関する体験学習会を継続的に実施しました。

○上高野学区（左京区）

「子どもが考える防災×エコ」

上高野小の児童が「私の好きな上高野」を発表し地域づくりを提言。また環境学習会と自治会館のLED化を行い、地域の省エネ促進に取り組みました。

○市原野学区（左京区）

「守りたい市原野エコマップ製作」

ふるさとウォークを通じ、子どもたちが景観と自然エネルギーについて考えました。また、自治会館をLED化し、地域の省エネ促進に取り組みました。



【安朱学区「食ロス×エコ in 安朱～子どもから地域へ～」】
小学校の授業で、児童たちがSDGsと食ロスについて学んでいる様子



【乾隆学区「快適でエコな居場所づくり」】
小学校で洗いもグリーンカーテンを育て、追肥の学習会を受けている様子



【向島藤ノ木学区「地球温暖化による災害を減らそう！向島藤ノ木節電所」】
地域の自治会館の照明をLEDに改修している様子

○朱雀第三学区（中京区）

「地域の『自然と防災×エコ』拠点づくり」

自治会館を防災とエコの拠点にするため、LED化し可動式太陽光パネルを設置。また、朱雀第三小ビオトープの「ホタル自生とグリーンレジリエンス化」改修計画を立てました。

●エコ学区ステップアッププログラム

各学区の課題に絡め、地域ぐるみのエコ活動を促進・定着させるプログラム

ムを、5学区で実施しました。

○安朱学区（山科区）

「食ロス×エコ in 安朱～子どもから地域へ～」

安朱小のSDGs活動を、地域と連携したものにしていくため、学校で食品ロスに関する授業とフードドライブを実施し、地域の方々から222点の食品を回収しました。

○乾隆学区（上京区）

「快適でエコな居場所づくり」

「洗いも」のグリーンカーテンを栽

培し、冷房エネルギー削減と快適化に取り組みました。秋には洗いも料理教室を行い、地域内交流も深まりました。

○御室学区（右京区）

「自治会館×エコ」

自治会館をLED化しCO₂排出を削減。また、省エネ生活学習会を継続的に実施し、学区住民の皆さんがエコライフを実践できるよう支援しました。

○向島藤ノ木学区（伏見区）

「地球温暖化による災害を減らそう！向島藤ノ木節電所」



【ブース型学習会】羽束師学区(伏見区)防災訓練でエコ防災ワークショップ(10月27日)



【学習会】鏡山学区(山科区)でのごみ分別学習会の様子(6月6日)



【ブース型学習会】下鴨学区のイベントで環境紙芝居を上演(11月17日)



【ブース出展】朱雀第二学区(中京区)のイベントに発電体験ブースを出展(11月3日)

●学区のお祭り等でのブース出展

「発電体験」「省エネ相談所」「エコ

実施しました。

「家庭でできる省エネ」「プラスチックごみ問題」「エコと防災」等様々なテーマで、自治会館、小学校、児童館等を会場とした学習会を25学区、イベント等でのブース型学習会を20学区で開催し、計799名(大人516名、子ども283名)に対しプログラムを実施しました。

●学区における学習会の開催

地域のイベント「西野まつり」でエネルギーや水素自動車について学びました。また、西野公会堂の照明をLEDに更新し、さらにHEMSを設置して電気使用量の見える化を行いました。

西野節電所

「地球温暖化による災害を減らそう！

○西野学区(山科区)

自治会館をLED化することによりCO₂排出を削減。また、照明、冷蔵庫、エアコン等の効率的な使用方法を学び、ライフスタイルの見直しを進めました。



令和元年度(第17回)京都環境賞で、エコ学区活動が表彰されました

と防災」等のブース出展を20学区で開催し、計5233名(大人1805名、子ども3428名)に対しプログラムを実施しました。

●「エコ学区担い手セミナー」の実施

地域で率先してエコ活動を実行できる担い手づくりを、エコ学区の事例を通して学ぶ連続セミナー。新川達郎同志社大学総合政策科学研究科教授・政策学部教授をモデレーターに迎え、計3回実施しました。(第3回目は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集まりを中止し代替措置として申込者に資料送付)

○2月10日 第1回

「地域施設と連携した未来の担い手育成」

話題提供者

岡本卓也氏

(東山いきいき市民活動センター長)

田崎文吾氏

(CoCo白川)

○2月25日 第2回

「PTAと連携したエコ活動」

話題提供者

藤原信生氏

(中立学区住民福祉協議会副会長)

○3月13日 第3回

「エコ活動を持続可能にするために」

話題提供者 豊園エコ推進委員会

1302 市民協働発電制度地域コミュニティ版 再生可能エネルギー 導入支援

京都市は、地域コミュニティが主体となった再生可能エネルギー利用設備の普及拡大を目指しています。サポートセンターは、地域における再生可能エネルギー発電について、当該学区にコーディネーターや専門家を派遣し、学習会、調査、事業化検討を実施。2019年度は、上高野学区(左京区)、錦林東山学区(左京区)、市原野学区(同)、朱雀第三学区(中京区)、豊園学区(下京区)の5地域で支援を行いました。



第1回エコ学区担い手セミナー(2月10日)では、栗田学区(東山区)で若者たちが白川の清掃に参加した経緯が紹介された。

パートナーの声



元町ごみ減量推進会議
会長
高田津也子さん

活動を「見える化」し、連携して エコ推進

元町ごみ減量推進会議は、元町社会福祉協議会・元町保健協議会・元町愛護会・元町小学校PTAの4団体で構成され、元町学区のエコ活動を担っています。平成25年にエコ学区となったことを契機として、毎月第2土曜を「元町エコの日」と定め、コミュニティ回収や学習会、地域清掃活動を行ってきました。

令和元年度は、プラスチック減量がテーマの学習会を5回、食品ロスを減らすためのフードドライブを2回実施しました。特に、元町小学校と京都大学が連携した「京都大学に行ってみよう」「京都大学の先生とエコの話をしよう」や「宇治茶ムリ講座と廃プラ・海ごみの話」といった学習会が好評でした。海の動物4種類をデザインした元町オリジナルマイバッグを配布し、喜んでいただきました。

私たちがいつも心掛けていることは「活動の見える化」です。ラミネート加工した「元町エコの日」のポスターを、京都市広報板やボランティアの戸口に貼って、1年中学区全体でエコの広報・周知をはかってきました。また、学校・PTA・地域各団体と連携して子どもたちと一緒に活動し、それをニュース等でお知らせしています。

省エネ・節電所・食品ロス・プラスチック削減等、年間テーマを決めて、CO₂削減・ストップ地球温暖化の学習を積み重ねてきましたが、活動を具体化するためには、地域

ごみ減量推進会議やエコ学区サポートセンターから大きな支援をいただけてきました。これからも学区みんなで力を合わせて無理なく楽しく活動していきたいと思えます。



参加者に好評だった元町オリジナルマイバッグ



「いらなくなったらいる人へ」をテーマに、岡崎公園でフリーマーケットを開催



地域のお祭り「西院ふれあいまつり」で、西院第二地域ごみ減が中心となりエコスタッフとして活動(11月10日)



企業向け講座「コンビニエンスストア『ローソン』のほっとな環境取組」(10月30日 京都商工会議所)

手をとってあつてごみを減らそう ～京都市ごみ減量推進会議～

1600
ごみ減量推進事業
自発性とパートナーシップ
を基本として

京都市ごみ減量推進会議（以下、市ごみ減）は、市民、市民団体、事業者、事業者団体、ごみ問題の専門家、京都市などが対等の立場で参画する組織です。お互いの立場を理解しながら、自発性とパートナーシップを基本として、ごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組を促進しています。

1995(平成7)年の京都市廃棄物減量等推進審議会の答申の中で、「行政主導だけではなく、市民・事業者・行政の3者の協働によるごみ減量の取組が必要」との考えが示され、翌1996(平成8)年に市ごみ減が発足しました。

これまでに、再生紙推進、秘密書類リサイクル、企業向け・市民向けごみ減量講座、フリーマーケット等多岐に渡る活動を実施。目まぐるしく変遷するごみ事情や環境法令に関する最新情報を、わかりやすく市民・事業者に提供しています。



子ども向けごみ減量講座「まんがワークショップ」
(11月30日 楽只児童館)



子ども向けごみ減量講座「牛乳パックで紙すき教室」
(8月5日 太秦児童館)

京都市のごみ減量に向けて

2019年、市ごみ減は当協会と組織統合し、ごみ減量課として事務局を担っています。京都市で発生するごみを減量し、環境を大切にしたいまちと暮らしを実現するために、これまで育んできたパートナーシップとごみ問題に関する専門性を生かして活動しています。市民・事業者・行政等が参画する「普及啓発部会」「2R型エコタウン構築部会」「ごみ減量事業化部会」「地域活動部会」の4つの部会で立案・検討し、次の事業を実施しました。

●普及啓発

〈講座〉

2019年度は、市民向け、親子・子ども向け、企業向けのごみ減量講座やワークショップ等を合計12回開催し、合計736名が参加しました。

〈ごみ減量啓発イベント〉

全市的イベント等に啓発ブース（パネル展示、アンケート、クイズ、工作教室等）を合計10回出展し、合計3012名が参加しました。

◇普及啓発で行った講座等(実施件数:12件 参加者数:736名)

	日程	内容	人数
企業向け	第1回 10/30	「コンビニエンスストア『ローソン』のほっとな環境取組」 三浦弘之氏 (株)ローソン 事業サポート本部 環境社会共生・地域連携推進部	31
	第2回 1/28	「現地確認して頂けますか？廃棄物処理施設見学ツアー」 (株)京都環境保全公社、日本ウエスト(株)、光アスコン(株)	40
	第3回 2/10	「食品リサイクル施設『エコの森京都』と『さすてな京都』見学バスツアー」 エコの森京都、大剛、さすてな京都	28
	第4回 2/25	「働き方改革×廃棄物削減！オフィスでの物の管理～コクヨの挑戦～」 高橋伸年氏 コクヨマーケティング(株) 関西支社関西サプライ営業部部長	9(※1)
	第5回 3/10	「食べ物捨てたくない。～常識にとらわれない『伯食屋』が目指すもの～」	54(※2)
子ども向け	第1回 8/2	紙漉きワークショップ (花山児童館)	19
	第2回 8/5	紙漉きワークショップ (太秦児童館)	107
	第3回 11/30	まんがワークショップ (楽只児童館)	24
フェス	9/28	「愉快なおもちゃ箱」 in 岡崎フリーマーケット	250
市民向け	8/31	「災害時のごみの行方 知っていますか？」 若林完明氏 環境省 近畿地方環境事務所 災害廃棄物対策専門官 森朋子氏 国立研究開発法人 国立環境研究所 特別研究員	38
	1/14～3/18	「今日もマイボトルで！～マイボトルでカフェや給水スポットを利用しよう！～」	160
3R・低炭素社会検定	10/19	3R部門半日コース (午前) 低炭素社会部門半日コース (午後)	会員受講 6 検定受験 10 会員受講 5 検定受験 9

〈広報〉

情報誌「ごみ日和」を年4回発行したほか(P36参照)、ホームページ等の情報提供を行いました。ホームページの閲覧数は年々増加し、特に岡崎フリーマーケットのページアクセス数

は月平均9073pvでした(前年比121%)。
また、(一社)持続可能環境センターの「3R・低炭素社会検定」事業に協力しました。

※1新型コロナウイルス感染拡大の影響により9名キャンセル

※2新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年9月5日に延期。人数は申込数



「2R茶会」として、おいしいお茶の淹れ方講習とともに
ペットボトルリサイクルの現状を伝えた



映画「プラスチック・チャイナ」上映会(9月14日 パタゴニア京都店)

◇2R型エコタウン構築事業
「リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうキャンペーン」
で行った講座等(実施件数28件 参加者数1,657人)

日程	内容	人数
9/14 14:00~/16:45~	映画「プラスチック・チャイナ」上映会+ミニ学習会	110
6/9、6/24、8/20、8/27、9/7、 9/24、10/7、1/28、2/24	学習会「海ごみ、脱プラ、私たちの暮らしとのつながり」	228
4/27、5/3	2R茶会	332
8/27、10/9、10/23、11/11、 11/21、12/6	宇治茶ムリエ講座	143
5/9、5/14、5/15、5/15、10/16、 10/30、11/20、12/17、12/18	リーフ茶大学講義 (京都光華女子大、同志社大、 立命館大、大商大、京都外大、 龍谷大、京都府立大)	844

●2R型エコタウン構築事業

〈講座・キャンペーン〉

ごみのリデュース(発生抑制)とリユース(再使用)の「2R」を推進するために、「リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうキャンペーン」を実施し、「映画上映会+ミニ学習会」「海ごみ・脱プラ学習会」「2R茶会」「リーフ茶大学講座」等を合計28回開催し、合計1,657名が参加しました。

また、地域ごみ減量推進会議向けに、京都府山城広域振興局と連携し、「宇

治茶ムリエ講座」として宇治茶の美味しい淹れ方、ペットボトルリサイクルの問題等の学習会を実施。

このキャンペーンを特設ホームページで発信し、月平均1万8,555PVのアクセス数を獲得(前年度比216・1%)。また、「脱プラ・減プラ」ステッカーを作成し、活動に賛同する人に配布しました。

〈2Rサービス紹介事業〉

京のお直し屋さんとリユースショップ情報サイト「もっぺん」の掲載店は

208店舗。特設ホームページ「京都の修理・リユースナビサイトへもっぺん」のアクセス数は月平均1万1,368PV(前年度比189・5%)でした。また岡崎フリーマーケットへの「もっぺん出張所」出店、「もっぺんマップ」作成等を行いました。

〈2R人づくり事業〉

2R型ライフスタイルを広める人づくり事業に向け、2019年度は、社会人向け教育事業の調査、関係する個人・団体のニーズ調査、試行的講座等を実施しました。



お直し屋さん
とリユースショップの
情報を掲載した
「もっぺんマップ」



裏面

●ごみ減量事業化

〈再生紙推進事業（めぐレット）〉

市内小中学校の児童・生徒が飲用した学校給食の学乳パックをトイレレットペーパー「めぐレット」の原料にリサイクルする事業で、2019年度は合計11万7108トンの回収量でした。
〈市民等からの提案によるごみ減量モデル事業〉

循環型社会の実現に資する事業に対し、先進的なモデル事業（上限100万円）と地域活動事業（上限50万円）の助成を行いました。9団体の応募があり、審査の結果9団体を採択しました。3月6日に予定していた成果報告会は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止しました。



京都市の学校給食の牛乳パックをリサイクルした「めぐレット」

〈岡崎フリーマーケット〉

家庭に眠っている不用品の再使用（リユース）を目的として、「いらなくなったらいる人へ」をテーマに、岡崎公園でフリーマーケットを10回開催しました（新型コロナウイルス感染拡大の影響により2回中止）。出店数は増加傾向にあります。また、環境の取組のPRの場として、他団体や他事業との連携を進めています。

〈秘密書類リサイクル事業〉

事業所から排出される、機密保持を要する書類（秘密書類）を、段ボール梱包の状態でリサイクル工場へ搬出しました（年合計9トン 前年度比120・4％）。



秘密書類リサイクル事業の回収の様子

●地域活動

京都市には、地域住民により組織される「地域ごみ減量推進会議」が206団体あり、市ごみ減が活動を支援しています。

2019年度も、行政区単位でのエコイベント開催や学区単位での資源物回

収、環境啓発のための勉強会（プラスチックごみ等）を実施する等、地域での課題に合わせた活動支援を行いました。

また、各区代表者会議（意見交換会）を8月23日、また、2月14日に花王（株）和歌山工場他の見学会を実施しました。

パートナーの声



京都府紙料協同組合
理事長 澤田修一さん

秘密書類リサイクル事業に 参画して

平成7年、市ごみ減が立ち上げられたのと同様時期に、私も京都府紙料協同組合が、秘密書類リサイクル事業における「引き取り」と「製紙工場への搬入」という重要な役目を仰せつかりました。以来、個人情報への守秘に万全を期し、今日に至ります。

当初はわずかな重量でしたが、現在は年間およそ1000トンの秘密書類をリサイクルルートに乗せ、新しい紙に生まれ変わらせることができるようになりました。かつては同量のごみとして焼却されていたのですから、隔世の感があります。これも長年に亘る市民、企業の皆様のリサイクル意識高揚もさることながら、市ごみ減からの啓発、周知の成果だと思います。

平成28年12月18日、ごみ減設立20周年の折に感謝状をいただきました。これからもこの事業を通して地球環境保護のお役に立てるよう取り組んで参ります。

行動計画の実現に取り組む 京のアジェンダ21フォーラム



京のアジェンダ21フォーラム会員の意見交換会で、組織運営のあり方や今後の活動について活発な議論を行った(7月19日)



シンポジウム「観光地の持続可能性 これからの展望」
(2月8日 京都経済センター)



京都環境コミュニティ活動(KESC)として複数の中小企業が連携し、
京都市立明徳小学校の学校観察林「わきの山」に防鹿柵を設置

京のアジェンダ21フォーラム事業
設立20周年を
迎えたフォーラム

1992(平成4)年に、ブラジルのリオデジャネイロで開催された「地球サミット(国連環境開発会議)」の会議では、21世紀に向けた持続可能な開発のための人類の行動計画「アジェンダ21」が採択されました。アジェンダ21は、地方公共団体に、地域住民との意見交換に基づいて「ローカルアジェンダ21」を策定することを求めています。

そこで京都市では、1997(平成9)年に京都市版行動計画「京のアジェンダ21」を定め、それを市民・事業者・行政のパートナーシップで推進するための組織「京のアジェンダ21フォーラム(以下、フォーラム)」を、1998(平成10年)に設立。以来、産官学および市民が連携し、

- ・環境マネジメントシステム「KES」
- ・家電製品への省エネルギーラベル表示
- ・お祭りへのリユース食器導入等、全



KESエコロジカルネットワークのキクタニギク展示
(京都駅ビル)



「環境かみしばいチーム」の紙芝居上演
(1月23日 向島保育園)

国のモデルともなる先駆的な取組を実践してきました。

2018年に20周年の節目を経て、これからも「プラットフォーム」「社会実験」「政策提言」の3つの働きを行っていきます。

持続可能社会の実現に向けて

2019年、フォーラムは当協会と組織統合し、引き続き京のアジェンダ21に示された行動計画を具体化し、環境と共生する持続可能社会を実現するために、以下の事業を実施しました。

●企業等による環境活動促進・支援

フォーラムでは、京都市内の各地域における事業者・学校・住民が、「環境保全活動」をキーワードに協力し合いながら活動するための支援を行っています。

2019年度は、複数の企業等がチームで環境保全活動に取り組む「京都環境コミュニティ活動(KESC)」と、企業等による生物多様性活動「KESエコロジカルネットワーク」の事務局業務を実施しました。

①京都環境コミュニティ活動(KESC)

〈ア環境エネルギーチーム〉

2月18日に京都市立藤ノ森小学校4

年生を対象に、「電気はどこでできているんだろう」をテーマに、環境学習の出前授業を行いました。

【チーム参加者】

(株)立花エレテック、(有)本杉工機、生田産機工業(株)、三菱電機照明(株)、(株)大電社、(株)エイコー
〈イ環境かみしばい学習チーム〉

12月4日につくし保育園(伏見区)、

1月23日向島保育園(伏見区)で新作の環境紙芝居「環境くんとバツサイくん」を上演しました。

【チーム参加者】

公栄運輸(株)、京都電測(株)、メック
トライフ生命保険(株)、アイセック
同志社大学委員会

〈ウ里山保全チーム〉

京都市立明德小学校の学校観察林、通称「わきの山」で、チマキザサ自生地を守るための鹿よけ防護柵を設置しました。

【チーム参加者】

(株)小林造園、京都信用金庫、(株)北斗プリント社、京都市立明德小学校、明德小学校学校運営協議会

②「KESエコロジカルネットワーク」事務局業務

KES環境マネジメントシステム・スタンダード登録企業や学校等が参加し、葵祭で使われる「フタバアオイ」や、東山の地名から名前がついた「キクタニギク」等、京都の文化にゆかりのある希少植物の保全・育成等をパートナーシップで行っています。

本格実施から5年目を迎えた2019年度は254事業所が参加し、説明会や育成講習会などを行ったほか、上賀茂神社へのフタバアオイの奉納、梅小路公園での「藤袴と和の花展」への出展などの連絡調整や様々な情報提供を行いました。

【関係団体】

NPO法人KES環境機構、(公財)京都市都市緑化協会、京都駅ビル開発(株)、京都市

なお、事業者向けのCSRセミナーを3月17日に企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。



祇園祭山鉾連合会の皆さん等との連続学習・検討会の様子



祇園祭ごみゼロ大作戦でさらに持続可能な取組を目指し
調査・研究プロジェクトが始動



「ゲームで体験！SDGs×まちづくり」の様子(1月5日 エコセン)



SDGsをテーマとした「市縁堂2019」にブース出展
(12月21日 ひと・まち交流館京都)

●観光のエコ化の推進

「祇園祭ごみゼロ大作戦」に参画し、観光のエコ化に向けた取組を行っています。

2019年度は、「プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存」として地球環境基金の助成を受け、7月の祇園祭での給水スポットの設置、地域店舗へのリユース食器導入試行、ごみの現地調査などを行いました。

そして9月以降、祇園祭山鉾連合会の皆さんを始めとする関係者にお集まりいただき、連続学習・検討会を開催。2月8日にはシンポジウム「観光地の持続可能性、これからの展望」を開催し、宗田好史氏（京都府立大学副学長）の基調講演の後、石川恵介氏（嵐山商店街副会長）、大嶋博規氏（祇園祭山鉾連合会副理事長）、太田航平氏（祇園祭ごみゼロ大作戦理事長）によるパネルディスカッションを行いました。（参加者56名）。

●京都におけるSDGsに関する取組の推進

京都における持続可能な社会づくりを進めるため、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に関する情報提供を行うとともに、多様な主体が取組を推進できる仕組みづくりについて調査研究を行い、各方面へ提案しています。

2019年度は、12月21日に、SDGsをテーマとしたイベント「市縁堂2019」（京都市市民活動総合センター主催）に出展し、ブースやショープレゼン等で環境情報をお伝えしたり、当協会の活動紹介等も行い、SDGsに関心のある多様な来場者や出展団体との交流を図ることもできました。また、1月5日には、かんえこ（関西環境系異業種ネットワーク）と共催で、「ゲームで体験！SDGs×まちづくり」を開催し、SDGsに関するミニレクチャーとカードゲーム「SDGs de 地方創生」の体験会を行いました。（高校生含め参加者33名）。

なお、2月29日に参加型セミナーを企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

●再生可能エネルギーの普及拡大・省エネルギーの推進

再生可能エネルギー（以下、再エネ）ワーキンググループ会議を定期的に開催し、再エネ導入・拡大に向けた取組を推進しています。

2019年度は、再エネワーキンググループ会議において、京都市との連携や太陽光発電による電力買取期間終了に際しての情報提供、京エコロジーセンター再エネ100%化等について検討を実施。

また、5月20日に「再生可能エネルギー100%セミナー」を開催し、RE100実施企業から東俊一郎氏（アスクル（株）CSR・環境・安全管理部長）、自然エネルギー100%宣言企業・団体から高林伸樹氏（（有）紀書房代表取締役社長）、木原浩貴氏（京都府地球温暖化防止活動推進センター事務局長）の事例報告と、豊田陽介氏（気候ネットワーク上席研究員）の進行によるパネルディスカッションを行いました（参加者35名）。



再生可能エネルギー100%セミナーの様子(5月20日)

●気候変動についての最新情報発信

2019年5月11日のIPCC第49回総会に併せて開催された京都市主催のシンポジウムで、フォーラム事業運営委員長の新川達郎氏（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授・政策学部教授）がパネルディスカッションのファシリテーターを務めたほか、「Global Landscapes Forum Kyoto 2019」にブース出展しました。

●環境情報等の発信と共有

9月と3月に情報誌「あじえんだ」を発行したほか（P36参照）、毎月初めにメールマガジン「京えこめる」の配信やホームページ、Facebook、Twitterでの情報発信を随時行いました。

●交流・共催事業の実施

5月に家庭の省エネ相談所協議会を開催したほか、京都カーフリーデー実行委員会への参画、京都雨庭研究会への参加などを行いました。

パートナーの声



（有）ひのでやエコライフ研究所 所長 鈴木 靖文さん

「祇園祭ごみゼロ大作戦」を よりよくするために

祇園祭の宵山の賑わいは夏の風物詩ですが、その裏で出てくるごみの量は半端ではありません。2014年から始まった「ごみゼロ大作戦」では、多くのボランティアスタッフの協力により、ごみ減量のほか、分別排出の向上、散乱ごみの削減など多くの成果をあげてきました。

そして更なる高みをめざそうと、京のアジエンダ21フォーラムが呼びかけ、今後の祇園祭ごみゼロ大作戦のあり方について検討が企画されました。リサイクル・リユースだけでなく、プラスチック問題も検討してみたり、「食べ歩きする祭り」と「本来の文化としての祭り」のギャップを考えてみたり、山鉾連合会や、ボランティアのほか、経済界、地元の方、研究者など、多様な意見が集まってきました。まだまだ「よりよくする」余地はたくさんありそうです。

祇園祭は、疫病退散の目的があり、みなでいい「祭り」を作り上げること、きつとコロナも克服していけると思っています。

京都モデルを生かし海外の人材育成 （国際事業）



京都市の最終処分場である「エコランド音羽の杜(京都市東部山間埋立処分地)」で解説を聞く海外からの研修員たち



松藤康司福岡大学名誉教授から、低コストで衛生的に廃棄物を埋め立て、浸出水の管理・処理を行う技術「福岡方式」を学ぶ研修員たち



高月紘 京都大学名誉教授(当協会理事長)による「地球環境問題総論」の講義

1201

JICA課題別研修

「廃棄物管理能力向上」

(応用・計画・政策編)

本研修は、海外で廃棄物管理に関わる行政職員に、2ヶ月にわたって訪日研修を実施するものです。廃棄物管理や政策に関わる講義や視察を行うだけでなく、市民参画による廃棄物減量や分別への協力をどのように得るのかという視点で、研修の企画から実施までを行っています。訪日研修に先立って約1週間、ブラジル国ブラジリア連邦直轄区及びサンパウロ市における在外補完研修を行ない、都市の規模や発展段階に応じた廃棄物管理についても学ぶ内容となっています。

講義・施設等見学・ワークショップからアクションプラン作成

2019年度は、8/29～10/19の間、4ヶ国から行政等職員8名（アンゴラ1名、ブラジル3名、モザンビーク3名、サントメ・プリンシペ1名）を受け入れました。



2ヶ月の研修の集大成として、
アクションプランを発表



アクションプランを作成している様子

【1週目】日本及び研修全体について

○JICA関西でオリエンテーション

○エコセン・京都市・同志社大で講義

「地球環境問題総論」「環境と経済」「日本の地方自治体・地方行政」

【2週目】課題分析と研修目標設定

○エコセン見学

○研究員それぞれの事前レポート発表

○目標設定・課題分析ワークショップ

【3週目】日本・京都の廃棄物管理・処理

○エコセンで講義

「京都市の廃棄物政策」

「廃棄物の実態把握と管理計画」

「廃棄物管理・処理の歴史、最新の動向」

「日本の廃棄物処理」

○京都市施設見学

「南部資源リサイクルセンター」

「横大路学園（プラスチック容器包装リサイクル中間処理施設）」

「BDF製造施設」

「北部クリーンセンター」

「最終埋立処分地『エコランド音羽の杜』」

「山科まち美化事務所」

「醍醐エコまちステーション」

【4週目】衛生的な埋立・コンポスト

技術等（福岡）

○広島市で見学

「平和記念公園」「平和記念資料館」

○福岡市で講義

「衛生的な廃棄物埋立技術について」

○福岡市施設見学

「西部（中田埋立場）」

「福岡市西部水処理センター」

○北九州市で講義

「公害・環境問題克服の取組の歴史」

○北九州市施設見学「環境ミュージアム」

「北九州エコタウン（エコタウンセンター・家電リサイクル工場・BDF工場・福岡大学実証研究施設）」

○北九州市で講義・実習

「生ごみコンポストについて（高倉式コンポスト）」

○大阪・兵庫・京都で講義・見学

「大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックス）」

「神戸ポートリサイクル」

「パナソニックエコテクノロジーセンター（株）」

「大栄環境（株）三木リサイクルセンター」

「（株）月桂冠」

「城南衛生管理組合」

「（株）山本清掃」

「（株）エム・アール・シー」

「（株）京都環境保全公社」

○エコセンで講義

「循環型社会の構築」

「京都市ごみ減量推進会議の取組」

「グリーン購入・グリーンコンシューマー」

「環境マネジメントシステムKES」

「市民参画の仕組みづくりとボランティアアマネジメント」

「京都市 エコ学区の取組について」

○滋賀県内で講義・見学・体験

「あいとう町菜の花プロジェクト」

「あいとうエコプラザ」

「農村生活体験（ファームステイ）」

【7週目】環境教育プログラムづくり

の考え方と方法

○エコセンで講義

「環境教育概論」

「環境教育プログラム企画の手法」

「ごみ減量市民啓発のプログラム企画」

「京都市こどもエコライフチャレンジ実施の経緯と京都の環境教育」

○京都市立砂川小学校で授業見学

「京都市こどもエコライフチャレンジ」

【8週目】アクションプラン作成

○JICA関西でアクションプラン作成・発表

このように、前半で講義や見学から

学んだことを自国で活かすため、後半



日系研修最終報告会で、アクションプランを発表



日系研修研修員が、エコセン全館イベントで環境教育プログラムを実施

では研修員それぞれのアクションプランを作成し、発表しました。それぞれのアクションプランが実行されるよう、研修終了後もフォローアップを行っていきます。

1203 JICA日系研修 受入業務

中南米の日系研修員を対象に、約1カ月間のJICA日系社会研修「環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）」コースを企画・実施しています。OJT形式で協会の業務を行うことを通じ、帰国後それぞれの立場で活躍できる環境教育リーダーの育成を図ります。

2019年度は、11月8日～12月2日の期間で、1名の日系ブラジル人研修員を受け入れました。エコセン業務を通じて環境教育のノウハウを学び、研修員が企画したマイクロ・プラスチックをテーマとした環境教育プログラムを、エコセン全館イベント時に多くの来館者に対して実施しました。

1202 JICA草の根事業 「イスカンダル・マレーシア地域における低炭素社会づくりに向けた人づくり・地域づくり」プロジェクト

本プロジェクトの第2フェーズとなる「低炭素社会実現に向けた人材育成とネットワーク拠点づくりプロジェクト」が、JICAに採択されました。第2フェーズのプロジェクト実施に向け、現地ステークホルダーとのプロジェクト実施にかかる合意文書（ミニッツ）の締結のための調整や、JICA関西及びJICAマレーシア事務所との調整を行いました。プロジェクト開始は2020年度中の予定です。



JICAマレーシア第2フェーズに向けた会議

1204 JICA中国 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援業務

中国で実施されている本プロジェクトにおいて、先方の要望に応じ、情報・意見交換や、研修の受入や短期専門家の派遣を行っています。これらを通じて、中国での環境学習施設の運営や環境教育の推進をはかるための取組及び仕組みづくりに、継続して協力を行っています。

2019年度は、中国・北京にある日中友好環境保全センター及びプロジェクト関係者との情報交換等を継続して実施しました。同センターの研究員が12月に関西を訪問した際には、希望されたテーマに合う関西のNGO団体等、視察先のコーディネートを行うとともに、日本のグリーン消費、特にプラスチックに関する3Rや市民教育、企業活動等について、エコセンでの意見交換を行いました。

その他 国際事業

環境教育、環境学習施設運営、市民参画を通じた国際協力の研修・事業について、リサーチを随時行っています。

4月15日にエコセンにおいて、韓国・自然の友研究所と日本国・当協会の両団体による環境教育・学習、ESD等推進に関する相互協力に係るMOU（覚書）締結式を行いました。締結式後に、韓国・自然の友研究所所長による講演会「韓国環境問題と環境教育

の流れ」を企画・実施しました。

また、11月8日～10日の3日間、インドネシア共和国アチエ州政府青少年局がNPO法人地球対話ラボ等と協働し実施している津波被災地間の交流プログラムの一部として、京都市における廃棄物管理等に関する研修「Waste Academy」を企画・実施。26名を受け入れ、講義や見学、ワークショップなどを行いました。



韓国・自然の友研究所と当協会のMoU（覚書）締結式



インドネシア国アチエ州政府青少年局が「さすてな京都」を見学

パートナーの声



JICA日系研修員
ブラジル サンパウロ州保健局
疫学調査センター所長

鈴木エリアナさん

環境教育リーダー養成 研修に参加して

2019年11月にエコセンで行われたJICA日系研修「環境教育リーダー養成研修」を研修員として受けました。約1ヶ月の間、多くの興味深いイベントに参加させていただきましたが、その中でも、クリーン

センターへの見学、「えこそらキッズ」と「+（プラス）未来フェスタ」への参加が思い出深く残ります。

京都市南部クリーンセンターは、汚くて騒々しい場所でゴミの山が焼却されると聞いていましたが、その逆でした。ロビーでは、ゴミとリサイクルについての問題や解決策に関するデータ、写真、事実がわかりやすく表示されていました。入口から出口まで、クリーンセンターはリラックスして楽しい方法で環境教育を伝えるよう心がけていて、感心しました。えこそらキッズの菜園グループに参加したところ、その人気の高さに驚き、そ

の理由が分かりました。ガーデニングを教えるだけでなく、植え付け、植物の季節性、野菜のさまざまな使用法を、穏やかで思いやりのある説明で伝えていました。大きくてきれいな野菜を育てることが目標ではなく、失敗や困難も、成功と同じくらい貴重な教訓であること、そしてそれは、この地球上のすべての生物を尊重することにつながることを学びました。

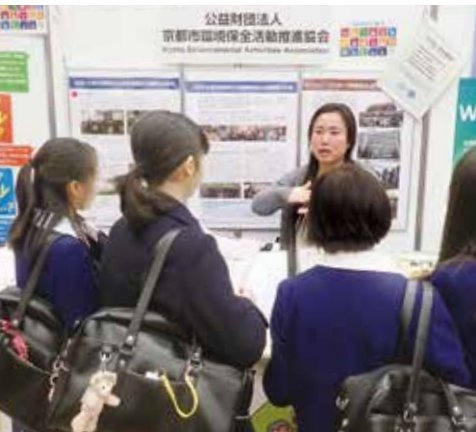
+（プラス）未来フェスタでは「ブラジルから来たお姉さんとペンサール!」という題名で、プラスチックとの人間の関係を、子どもたちにプレゼンテーションしました。担当職員さんやエコセンの皆さんから教わった知識を生かして、適切で楽しい方法でメッセージを伝えられたかと思っています。私が学んだ主な教訓は、人々が自分で見て、触れて、考えるときに、環境についての理解を発展させられるということでした。

ブラジルに戻って、私が住んでいるアパートにコミュニティガーデンを設置するための行動計画を実行し始めていましたが、残念ながらCOVID-19によって会議は延期されました。私は現在、住宅内でのリサイクル可能なものの分別を改善する取り組みをがんばっています。

蓄積したノウハウの活用 （講師派遣・調査研究等）



京都市立嵯峨野小学校「エコロジー学習」の授業に当協会職員を講師として派遣(6月11日)



国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」に出席(2月1日 大阪市北区民センター)



「みやこ KAMADOKI プログラム」成果報告会で、大学生たちが発表する様子(9月22日 京都経済センター)

◇講師派遣 実績一覧

日程	事業名	主催
6/11	エコロジー学習 (ごみ減量に係る授業)	京都市立嵯峨野小学校
6/21	JICA 課題別研修 「エネルギーの効率利用と省エネの推進(C)」	(一財)省エネルギーセンター
6/24	自主くらぶ「お袋さん」への講師派遣	生活協同組合 コープこうべ
7/26	夏休み親子エコ工作教室	京都生協北ブロック ほっこりクラブ
8/3	新任ボランティア コーディネーター基礎研修	(社福)大阪ボランティア協会
9/7 9/8 10/5 10/6	「ボランティアコーディネーション力検定」直前研修	(特活)日本ボランティアコーディネーター協会
9/17	JICA 草の根パートナー型「ブータン王国ティンブー市における廃棄物適正管理に関する技術移転事業」	(一財)日本環境衛生センター
10/24	JICA 課題別研修 「博物館とコミュニティ開発」	国立民族学博物館
2/12	JICA 課題別研修 「総合的な廃棄物管理(全般)(B)」	中部リサイクル運動市民の会

講師派遣の依頼を受け、環境教育、環境学習施設運営、ボランティアコーディネート等について講演等を行い、学会等でも事例発表を行いました。また2019年度は、文部科学省「平成31年度ユネスコ活動費補助金SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」に採択され、「京都・関西SDGs ネットワーク—みやこKAMADOKIプログラム実行委員会」を設置し、大学生・大学院生対象の事業を実施しました。

1401-1502
講師派遣・プロモーション・ESD-SDGs事業

◇学会等での発表等 実績一覧

日程	事業名	主催
5/11	IPCC 第49回総会京都市開催記念シンポジウム	京都市
5/13	「Global Landscapes Forum Kyoto 2019」(パネル出展)	国際林業研究センター
8/23	豊中市「協働の取組に関する意見交換会」	豊中市
11/15 ~17	清里ミーティング 2019(ポスターセッション)	(公財)日本環境教育フォーラム
2/1 2/2	第27回ワン・ワールド・フェスティバル	ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
2/14 2/15	持続可能な社会・なりわい・暮らしささやまミーティング	エコネット近畿

発行物一覧

当協会が2019年度に発行した
広報物をご紹介します。

◆広報誌「えこせん」

読者が家庭でエコな暮らしを意識・実践し、エコセンへ来館するきっかけをつくるために、広報誌「えこせん」を年間で6回発行（各5500部）。発行した広報誌は、エコセン館内や区役所、図書館、児童館、京都市動物園等、市

内各所に配架しています。

広報誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」を意識した、読みやすい誌面づくりを行い、家庭で取り組めるエコライフの紹介のほか、京エコロジーセンターのイベントや施設を紹介しました。

◆環境副読本

地球温暖化をはじめ幅広く環境問題について学べる環境副読本（小学4年生用、5年生用、中学生用）を作成し、市内すべての小学校および中学校に配付しました。

◆情報誌「ごみ日和」

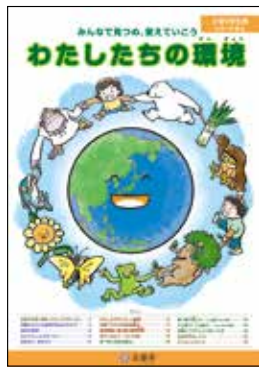
ごみ減量につながるライフスタイル転換のヒントや、京都市ごみ減量推進会議に関わる各団体の活動報告等を掲載した広報誌を、年4回発行しました（各2500部）。

◆啓発冊子

市民の環境意識を高めることを目的に啓発冊子を作成しました。「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」「IPCC京都ガイドライン」「1.5℃を目指す京都アピール」等を紹介する冊子を6000部発行しました。

◆情報誌「あじえんだ」

京のアジェンダ21フォーラム会員及び市民、事業者などに対して、世界の動きや「京のアジェンダ21」の推進について情報発信する広報誌を、年2回発行しました（各1000部）。



◆エコ学区かいらんぱん
京都市内の各地域で実施されているエコ活動を紹介する8ページの冊子を、54800部発行し、京都市内の全戸に回覧しました。



パートナーの声

社会課題の解決へ力強く踏み出そう



大阪産業大学
人間環境学研究所 教授
花田 眞理子さん

2001年、京都市環境事業協会（現・京都市環境保全活動推進協会）がスタートして、まもなく20周年を迎えます。私が大学で、「学生が近隣の小学

校で環境授業を実施する」という演習をスタートしたのは2003年でしたが、当初から環境の重要性を子どもたちに伝えるコミュニケーション研修の場として、エコセンを見学させて頂いてきました。実際に来場者と接しているエコメイトの方にお話を伺えること、スタッフの方に「子ども向け授業」を実践していただくことは、学生た

ちにとって大きな収穫となり、大阪の小学生にも環境マインドの輪が広がっていきました。

また、京のアジェンダ21フォーラムは、1992年の地球サミットで採択された「アジェンダ21」の地方版の実践組織として、「KES」や「省エネラベル」の創設など、全国の環境経営や政策に多大な影響を与えてきました。まさに日本におけるアジェンダ活動をリードしてきた組織であり、実効性を持ったアジェンダ組織が国内で

は少ないなか、様々な主体の議論と協働の結実した素晴らしい成果をいつもまぶしく拝見しております。

さらに私自身が大阪ごみ減量推進会議の代表を務めていることから、京都市ごみ減量推進会議の実践活動にいつも学ばせて頂いております。

この統合に、協会の理事として関わらせていただいたことに深い感慨を覚えております。

この統合に私が期待することは、積極的な政策提言を通じて、これまで以上にパワフルに社会課題を解決できる組織になっていただきたいということです。COP3開催の地としてのプライドとそれぞれの組織の実績を胸に、協働と創造を通じて、世界に京都モデルを発信する組織として、その発展に大きな期待を寄せています。

パートナーの声

「令和」の時代を「脱炭素」の時代へ



京都市長
門川 大作さん

近年、記録的な大雨が毎年のように日本各地を襲い、多くの犠牲者が出るなど甚大な被害が発生しています。世界でも、森

林火災をはじめ様々な自然災害が多発しています。地球温暖化が一因と考えられているこれらの現象は、急速な環境の変化に地球が悲鳴を上げているシグナルなのではないでしょうか。今まさに、世界中が結束して環境問題と真剣に向き合い、地球温暖化対策を次の段階へと進めていく時期です。

新たなステージへの転換点となった2019年は、貴協会の高月紘理事長、新川達郎「京のアジェンダ21フォーラム」事業運営委員長など多くの方々とともに「1.5℃を目指す京都アピール」を発表し、「2050年CO₂排出量正味ゼロ」を掲げた年です。さらに、貴協会、京都市ごみ減量推進会議並びに京のアジェンダ21フォーラムの3つの団体が統合を果たされた年でもあります。持続可能な社会を実現するため、それぞれの

団体が築いてこられた経験や強みを集結させ、環境保全の取組を一層推進していかれることを、大変心強く感じております。

現在、新型コロナウイルス感染症により世界中の社会・経済が大きなダメージを受けています。そんな経済の立て直しと同時に、脱炭素社会を実現する「緑の回復（グリーン・リカバリー）」を求める動きが世界で加速しています。今後、この流れに乗り、2050年に向けた筋道を確固たるものとしていくために、環

境活動の担い手育成、人と人をつなげる貴協会の御活動に、大きな期待をしております。

本市では引き続き、市民ぐるみで日本を、そして世界を牽引する環境対策を進めていきます。「令和」の時代が「脱炭素」の時代となるよう、共に力を尽くしてまいります。

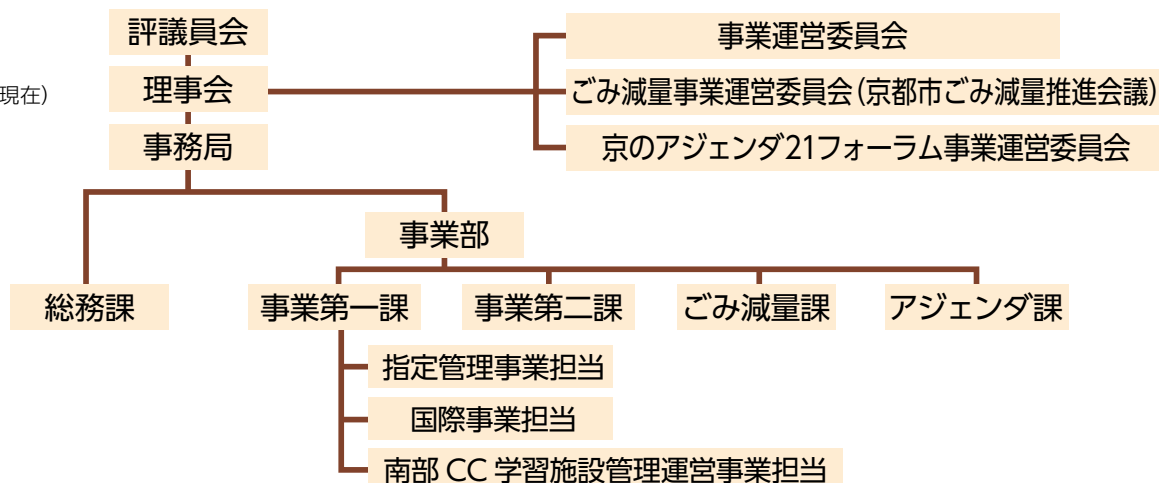


「1.5℃を目指す
京都アピール」

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 事業運営体制

◇組織図

(2020年3月31日現在)



◇役員名簿 (敬称略・順不同・2020年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属 ・ 役 職
理事長	高月 紘	京都大学 名誉教授
専務理事	田中 ひづる	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 事務局長
理 事	枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民 代表理事
	田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク 事務局長
	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
	花田真理子	大阪産業大学 大学院 人間環境学研究科 教授
	久山喜久雄	フィールドソサイエティー 代表
	新川 達郎	同志社大学 大学院 総合政策科学研究科 教授 政策学部 教授
	山中 かおり	京都市環境政策局 地球温暖化対策室 担当部長
	野村 克章	税理士
監 事	水口 重忠	元京都市伏見区長

役 職	氏 名	所 属 ・ 役 職
評議員	浅利 美鈴	京都大学 地球環境学 准教授
	市川 智史	滋賀大学 研究推進機構 教授
	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議 会長
	永橋 爲介	立命館大学 産業社会学部 教授
	長屋 博久	有限会社 村田堂 取締役
	原 強	京都循環経済研究所 所長
	桑 善子	有限会社 思風都 代表取締役 会長
	周 瑋生	立命館大学 政策科学部 教授
	田中 克	京都大学 名誉教授
	安部 孝幸	株式会社 京都銀行 公務・地域連携部 観光・地域活性化 室長
	南山 泰宏	京都教育大学 環境教育実践センター 教授

◇職員数 (2020年3月31日現在)

			総 務 課				事 業 部										
理事長	専務理事	事務局長	課長	事務職員	臨時職員	小 計	部長	課長	課長補佐	事業職員	事務職員	研修職員	再雇用職員	臨時職員	小計	合計	
1	1	(1)	1	3	2	6	1	3 (1)	1	11	1	7	1	4	29	37	

※事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち1名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者は、() で表示している。

KES(環境マネジメントシステム)の取組



KES周辺清掃活動の様子

- 【取組項目】
- ① LED照明化の推進
 - ② 紙の使用量の削減
 - ③ 環境啓発
 - ④ 産業廃棄物の再資源化の推進
 - ⑤ 生物多様性を高める活動



KES (環境マネジメントシステム) は、京都発の環境管理規格で、全国約5000の事業所が登録しています。1998年、京のアジェンダ21フォーラムが発足し、中小企業向け環境管理規格の検討に取り組みました。そして1999年に、KES初版が誕生しました。

京エコロジーセンターは、2003年8月にKESステップ2を取得し、館内で働く職員及び環境ボランティア全員で取り組んでいます。基本理念「京エコロジーセンターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します」とのもと、2019年度は次の項目に取り組みました。

事業	主な方向性
(1) 環境意識の普及、啓発に関する事業	①地域社会との連携を深める
(2) 環境情報の発信事業	⑥発信力の強化
(3) 環境保全に関する調査、研究に関する事業	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(4) 環境教育及び人材育成に関する事業	③人材育成
(5) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業	②パートナーシップをこれまで以上に
(6) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業	①地域社会との連携を深める
(7) 環境保全活動に関する施設の管理運営	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(8) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業	

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】

協会が様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」をつくるノウハウが、京都市以外にも提供できるようになっている。

6 発信力の強化

【達成目標】

「情報を発信する」ことで、様々な人・組織の共感・信頼を得て、その協力の中で、より質の高い事業を展開することができている。
(新たな事業分野に取り組むことができている。／これにより、財源の多様化が進み、協会の自立性が高まっている。)

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】

2020年に引き続き、社会のニーズや対象者の発達段階をふまえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成をより進めるために、これまで以上に幅広い対象にあわせたモデルプログラムを開発し、実施する。さらに開発・実施の過程で得たノウハウを京都内外へ広く発信することで対価を得ることにつながる。



4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】

京都の環境保全活動・環境教育のノウハウが協会において整理され、協会を通じて国内外で応用できる体制が整っており、アジアをはじめとする世界からも注目される存在となっている。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】

環境分野の活動における中間支援組織の役割を担っており、様々な主体を適切につなぎ、パートナーシップ型の事業展開を支援している。これにより、京都の中での様々なパートナー同士のネットワークを形成し、京都の環境ソーシャルキャピタルを醸成・向上させる役割を担っている。

3 人材育成

【達成目標】

2020年までに整えたプログラムをもとに、「動かす人・つなぐ人・しかける人」を育てるためのモデル事業が複数地域において実施されている。

— 協会が目指すもの —

環境に配慮した 市民の自主的な行動による 地域社会づくりに寄与すること。

そのための
ミッション・ビジョンに
基づく事業取組と
主な方向性の関連一覧

6 発信力の強化

【達成目標】

センター事業はもちろん、それを包括して「協会」としての事業や業績を広く周知するための体制（人、ソフト、ハードなど）が整っており、効果的な情報発信（必要な人に、必要なタイミングで、必要な量と質の情報を、発信）ができています。これにより、協会としての新たな事業連携先や顧客になり得るところに情報が発信され、関係性が構築されている。

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】

プログラム開発にあたっては社会のニーズや対象者の発達段階を踏まえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成を進めるために、環境分野だけでなく様々な団体とのパートナーシップにより、それぞれの地域や対象にあったモデルプログラムを開発し、実施している。

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】

協会は様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」が、モデルとして実験され継続実施している。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】

協会の様々な事業が、パートナーシップ型で推進され、多くのパートナーとの関係性が構築されている。また、組織の経営・運営にもかかる新しいパートナーシップ型のモデルができています。

3 人材育成

【達成目標】

協会は、人材育成のステップ「知っている人→伝える人・動く人→動かす人・つなぐ人・しかける人」のなかで、ボランティア事業としては「知っている人」、「伝える人・動く人」を育てることを重点化している。また、地域において「動かす人・つなぐ人・しかける人」の人材育成を図るため、必要なプログラムを整えている。

4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】

京都におけるパートナーシップによる気候変動対策・都市型環境教育推進をはじめとした様々なローカルモデルが日本国内の他の地域だけでなく、アジアをはじめとした世界でも展開されている（少なくとも1か国以上での展開）。協会はそのコーディネートの中核として、京都の各種団体のノウハウを活かし、世界へ発信する役割を担っている。

2020

達成目標
第1フェーズ

沿革

当協会の前身である財団法人京都市環境事業協会は2001年に設立され、パートナーシップで環境学習や環境保全活動の輪を広げていくための拠点施設として、2002年に「京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）」が開館しました。

京エコロジーセンターは、1997年に「地球温暖化防止京都会議（COP3）」が開催されたことを記念して開設された施設であり、協会は同センターの管理運営を通して、市民の皆さまとともに歩んでまいりました。

2014年には「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」へと改称し、2019年には協会と京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムの3団体が組織統合しました。

これからも持続可能な社会の実現を目指して、国内外で、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的行動による地域社会づくり寄与できるよう、さらなる歩みをすすめていきます。



協会の歩み(概要)

京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」開館(10月6日)
京エコロジーセンターの開館以来の来館者数が150万人を達成(9月10日)
1.5℃を目指す京都アピール(IPCC第49回総会京都市開催記念シンポジウム
脱炭素社会の実現に向けて／5月11日)
京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムと組織統合(4月1日)

京のアジェンダ21フォーラム設立20周年

持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言
(京都議定書誕生20周年記念「地球環境京都会議2017(KYOTO+20)」)

京都市ごみ減量推進会議設立20周年

国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)にてパリ協定採択
協会中長期計画策定

京エコロジーセンターの開館以来の来館者数が100万人を達成(7月18日)
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称(4月1日)

京エコロジーセンター指定管理者を受任(第3期)

京エコロジーセンター開館10周年(4月21日)

改正京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
京エコロジーセンター第2期中長期計画策定(3月)

京エコロジーセンター指定管理者を受任(第2期)

京エコロジーセンター指定管理者を受任(第1期)

京エコロジーセンター中長期計画を策定
京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
京都議定書発効(2月16日)

京エコロジーセンター開館(4月21日)
京エコロジーセンターの運営開始(4月)

京エコロジーセンターの環境ボランティア養成を開始(9月)
財団法人京都市環境事業協会設立(2月)

建設工事着工
環境学習・エコロジーセンター(仮称)事業検討委員会、企画委員会を設置

環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定

環境学習・エコロジーセンター(仮称)基本構想策定懇話会を設置
京のアジェンダ21フォーラム設立(11月)

国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)にて京都議定書採択
京都市が「京のアジェンダ21」を策定

新京都市環境管理計画策定(COP記念センター構想)
京都市ごみ減量推進会議設立(11月)

国連気候変動枠組条約第1回締約国会議(COP1 ベルリン)
京都市廃棄物減量等推進審議会
(市民・事業者・行政3者協働のごみ減量の取組の必要性を位置づけ)

京都市一般廃棄物処理基本構想策定
(ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ)

国連環境開発会議(地球サミット リオデジャネイロ)

令和元年
2019

平成30年
2018

平成29年
2017

平成28年
2016

平成27年
2015

平成26年
2014

平成25年
2013

平成24年
2012

平成23年
2011

平成21年
2009

平成18年
2006

平成17年
2005

平成14年
2002

平成13年
2001

平成12年
2000

平成11年
1999

平成10年
1998

平成9年
1997

平成8年
1996

平成7年
1995

平成6年
1994

平成4年
1992

私たちと一緒に持続可能な 地域社会づくりに取り組みませんか？

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、京エコロジーセンターやさすてな京都の管理運営、環境ボランティアの養成・マネジメント、地域に入り込んだ環境まちづくりの支援等の事業を通じ、これまで様々な経験とノウハウを蓄積してきました。その積み重ねと職員それぞれのスキルを生かし、皆様の活動に関する多様なニーズにお応えします。



講師の派遣

環境を切り口にした講座やワークショップの講師を派遣します。また、セミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境学習や環境保全活動の場づくりをお手伝いします。

HPのメールフォーム・電話、または直接来館にてお気軽にご相談ください。

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会 HP
<https://keaa.or.jp/>

コンサルテーション

環境学習施設の運営・展示の開発・市民活動団体の支援やネットワーク化・ボランティア等市民参画の仕組みづくり等を支援します。



インフォメーション

- 住所 〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター内
☎075-641-0911 FAX 075-641-0912

京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)

- 開館時間 9時～21時(1・2階展示室は17時まで)
- 休館日 木曜日(祝日の場合は翌平日)
- アクセス 【京阪電車】
藤森駅:下車、西へ徒歩約5分
【地下鉄・近鉄】
竹田駅:下車、東へ徒歩約12分
【市バス】
105・南5・臨南5・南8
「青少年科学センター前」
下車、南へ徒歩約2分



ご寄付について

当協会は、持続可能な社会づくりに向けた取組を行っています。この取組を今後も継続するために、寄付金を受け付けています。ご支援とご協力をお願いします。

詳細は協会HPをご覧ください。

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

- 京エコロジーセンターブログもご覧ください
<https://www.miyako-eco.jp>
<https://www.miyako-eco.jp/blog/>
- 京都市ごみ減量推進会議
<https://kyoto-gomigen.jp>
- 京のアジェンダ21フォーラム
<http://ma21f.jp>





2019

事業報告書

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 ☎ 075-641-0911 FAX 075-641-0912



- 用紙: 適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ・ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷